指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）について

佐久間　儀郎

〔質問〕指定暑熱避難施設は、熱中症による人の健康に関わる被害発生を防止するため、誰でも休憩できる冷房設備が整った施設である。気候変動適応法により、市町村内の施設を指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）として指定できる制度が創設された。

本市は6月14日から10月23日までの期間、市役所本庁舎、中央公民館、総合福祉センター、図書館の4施設1階ロビーを設置場所に指定したが、4施設で十分との考えなのか伺う。

〔答弁〕【環境課長】熱中症特別警戒情報は過去に例のない危険な暑さが見込まれる状況で発令されることから、発令状況や市民の施設利用状況等を踏まえ、必要に応じて見直しを行なっていきたい。

〔質問〕制度と避難の際の利用の仕方などを周知する用意はあるか。

〔答弁〕【環境課長】指定当日より市公式ホームページおよび安心メールにより周知し、広報しろいし7月号と合わせたチラシ配布を予定している。

〔質問〕行政とともに熱中症対策に取り組んでいただけるよう、クーリングシェルターとして開放すべく民間施設を募集してはいかがか。

〔答弁〕【市長】改正気候変動適応法では、市町村以外の者が管理する施設についても、当該管理者の同意を得て指定できるとされている。

今後、民間施設のシェルター指定をはじめ、民間団体等との熱中症対策における連携協力も検討していきたい。

〔質問〕熱中症特別警戒情報が発表されていない場合でも、夏場、運用期間中に高齢者等に休憩場所として開放してはいかがか。

〔答弁〕【市長】指定した4施設は、仮に熱中症特別警戒情報が発表されない場合でも、市民からの申し出等により暑さをしのげる施設として休憩できるよう対応したい。

【その他の質問】

◎迅速な罹災証明書の発行・交付について

白石市の組織について

小川　正人

〔質問〕財政は自治体の規模により限りがあるが、人材はその限りではないと考える。それゆえ、人材の登用や能力を引き出すことは欠かすことができない。

市政の中心は市長であるが、山田市長になってから、建設部長、教育部長を国から派遣していただき、大いに市政の力になっていただいている。しかし、菊地副市長の英気と努力と苦労なくして現行の白石市はあり得ず、気の毒に感じる時がある。

そこで、副市長の負担を軽減するためにも、副市長を二人体制にし、国・宮城県の人材を登用してはどうか。

私は白石を良く知っている宮城県からの応援をいただくのが良いと考えるが、市長の見解を伺う。

〔答弁〕【市長】副市長を二人体制にしてはどうかという提案であるが、私の任期も残り5カ月を切っていることから、今、この段階で組織の体制を変えるということは考えていない。

全国的にも国や県から副市長を派遣していただき、国や県とのパイプを生かし、課題解決に当たっている市町村は数多くある。

そのような状況から、副市長を二人体制にして、一人を県から派遣していただくという提案は、今後、検討に値するのではないかと感じている。

私の任期もあとわずかであるので、任期中は現在の体制で精一杯頑張らせていただき、今回の提案については今後の検討課題とさせていただきたい。

◎益岡公園について

〔質問〕益岡公園は花や木、スポーツ施設、白石城があり、白石の名所であるが、桜の一部にはてんぐ巣病に感染している木も見受けられる。

今後、どのような予算で管理を行う予定なのか伺う。

〔答弁〕【都市創造課長】益岡公園本丸内の管理は（財）白石市文化体育振興財団に委託している。

桜の名所である益岡公園を引き継ぐため、樹木の状況を確認しながら補植の計画を行うとともに、補植や移植に活用できる各種制度を探りながら対応していきたい。

【その他の質問】

◎選挙の投票率向上対策について

◎水害対策について

二次元コードから各議員の質問動画へアクセスできます。